

ロングトレイル 苦行の段階

過去 1000 年以上もの間、ここで修行を積んだ僧侶の歩んだ足跡は、傑出した道の遺産を残すことになりました。この道は半島の山々を繋ぎ合わせています。僧侶の修行は峰入り「尾根を歩く」と呼ばれています。様々な寺院に向かう非常に労力のいる旅であり、修行者は質素な白の服、レギンス、サングルを着用します。今では、「峰道ロングトレイル」と呼ばれています。今日残っているものは、山道および古道、縦走する広い谷間、ほぼ垂直の火山岩の頂上を結ぶ 135 キロメートルの道です。

トレッキングのルート選択

ロングトレイルは 10 コースあり、4 コースが豊後高田市に位置しています。この地域全体を漂うスピリチュアルな繋がりを体験しつつ、象徴的な景色を眺めながらトレッキングを楽しむ機会を与えてくれます。ルートは、重要な場所をすべて網羅しています。最南端の場所では、例に挙げると、熊野磨崖仏の岩彫りの仏像から始まり、見事な仏像を有する真木大堂を通過して、田染荘のあるみずみずしい谷間に行き、その後は富貴寺や天念寺など古代の建造物を通過します。距離は 10 キロメートルから 15 キロメートルまでの範囲ですが、難易度は当てになりません。散歩以上にならない場所もある一方で、登山者は、垂直の岩壁にはめ込まれた鎖を頼りにして登らなければいけない箇所もあります。